

# 平和祈念像原型曳家工事見学会次第

令和7年12月13日（土）11：00～12：00

1．開会あいさつ・・・宜野湾市長 佐喜眞 淳

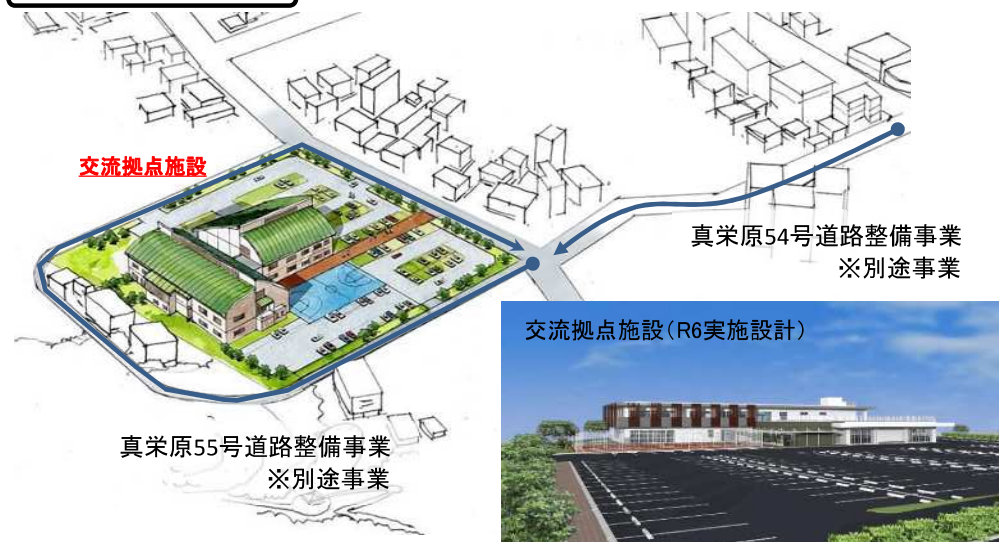
2．事業説明

①普天間飛行場周辺まちづくり事業について（プロジェクト推進室）

②平和祈念像「原型」について（市立博物館・文化課）

③曳家工事について（建築課）

3．曳家工事見学



## 山田真山画伯と平和祈念像制作について

平敷 兼哉(宜野湾市立博物館 館長)

### 1. 山田真山画伯の青年期から宜野湾に移り住むまで

山田真山画伯といえば、糸満市摩文仁にある沖縄平和祈念像の制作者、もしくは彫刻と絵画、両方に長ける沖縄を代表する芸術家と思い起こすのではないのでしょうか。

真山画伯は1885(明治18)年、現在的那覇市壺屋の生まれで、1906(明治39)年に東京美術学校(現在の東京芸術大学)に進学し、彫刻や日本画を学びます。1928(昭和3)年には、明治神宮聖徳記念絵画館に「琉球藩設置」の絵画を奉納しました。

1940(昭和15)年に沖縄へ戻り、その後、沖縄戦をむかえます。戦後、石川にいた真山画伯は、普天間(現在の普天間高校)で開設していた米軍人向け新聞「デイリーオキナワン」の編集長、ポーター氏から新聞の挿絵を描くよう頼まれ、それをきっかけに普天間に移り、以後、そこでの創作活動が始まりました。



山田真山(1885～1977)



デイリーオキナワン社屋(普天間)



山田真山画伯は、1972 年に和歌山県的那智勝浦の湯川温泉診療所に平和長寿観音(写真左)を奉納しました。現在、この観音像は、世界遺産の紀伊山地の霊場と参詣道、那智山青岸渡寺(写真右)に収められています。





## 2. 平和祈念像の制作

真山画伯は、戦争で息子を失った悲しみや世界平和への想いから、1957(昭和32)年、当時 72 歳から 1975(昭和50)年まで 18 年の歳月をかけて、普天間で祈念像原型制作に取り組みました。真山画伯の祈念像制作への想いは強く、白いシャツを来た白鬚の真山画伯が制作場で熱心に説明してくれた、と思い出を語る方が今もおります。

真山画伯は原型の完成後、1977(昭和 52)年、92歳で亡くなりました。その後、真山画伯の弟子たちが画伯の想いを引き継ぎ、1978(昭和 53)年に糸満市摩文仁の沖縄平和祈念像が完成しました。



平和祈念像の原型制作に取り組む山田真山画伯



平和祈念像原型(左)と糸満市摩文仁の沖縄平和祈念像(右)

### 3. アトリエ跡に残る真山資料

糸満市摩文仁の平和祈念像ができた後、この祈念像原型を含め、アトリエ内の資料は、公益財団法人沖縄協会が管理していました。

これらの資料は、2020(令和2)年 2 月に宜野湾市に贈与されました。アトリエ跡から運び出した真山関係資料や祈念像制作に関する資料は、実物資料 4,757 点、写真資料 1,146 点、合計 5,903 点です。



祈念像原型を収めた建物とアトリエ跡

#### ◆アトリエ跡に残されたもの



油性漆塗料や小道具類



書類や図面類、デスク



石膏の像や獅子頭など

これらの資料は現在、宜野湾市立博物館にて保管し、資料整理・登録、必要に応じて修復等を行っています。



#### 4. 真山の平和への想いと美を求めて～真山の想いを継承する～

宜野湾市では、その真山画伯の平和への想いを次世代に継承しようと、普天間門前まちづくり事業の一環で、平和祈念像『原型』復活プロジェクトを立ち上げ、2028(令和 10)年度の祈念像原型の公開にむけて取り組んでいます。

祈念像原型を収めた展示棟では、原型の展示以外に「山田真山 美＝平和祈念像を通した平和へのまなざし」を展示コンセプトに、沖縄で生まれ、戦争に翻弄されながらも 18 年もの歳月をかけて祈念像制作に挑んだ真山画伯の「美を通した平和への想い」を感じる展示を計画しており、真山画伯や祈念像制作に関する展示コーナーも設けます。

2025(令和7)年9月から10月にかけて、祈念像原型本体の曳家工事が行われ、既存の建物から養生棟へ移す工事を終えました。本日(12/13)は、祈念像原型を収めた養生棟、そのものの移動(曳家)が行われます。全国的になかなか見ることのできない曳家の様子をこの機会に、ご鑑賞ください。



平和の象徴のハトとたわむれる山田真山画伯

#### ◆宜野湾市内で見られる山田真山画伯の作品



上:「羽衣天女像」(宜野湾市役所駐車場)  
「羽衣天女像」をモチーフにしたものが  
真志喜の森川公園内にもあります。

左:「交通安全之塔」(伊佐三叉路)  
上部の炎部分を制作しました。

# 沖縄平和祈念像原型の補修に向けて

補修前 高さ約 10m 光背までの高さ約 12m、幅約 7.5m 重さ約 24 t（想定） 漆喰製

沖縄平和祈念像原型は、恒久平和を願って山田真山画伯により 1957 年に制作を開始し、1975 年に完成、1978 年糸満の祈念像完成後に取り壊す予定であった。制作後、50 年が経っており経年劣化などもあり原型自体の強度がわからない状況で、問題点がいくつもあった。

当初原型は、原位置での補修予定であったが、展示棟の建設高騰などが予想されたため、曳家して展示棟建設後に補修を行うこととなった。

## 補修での主な問題点

- ・ 原型を支える土間に鉄筋がなく、原型を支える既設鉄骨が土間に固定されていない。
- ・ 光背鉄骨はさびが著しく、ベニヤも腐食が進む。曳家を行うには倒壊の危険
- ・ 原型を支える内部木軸のシロアリ被害が激しく、更に木軸と土間が乖離
- ・ 原型の制作過程において、漆喰間に空洞があり、原型強度に不安
- ・ 長年の風雨、経年劣化などにより漆喰の強度が全体的に低下

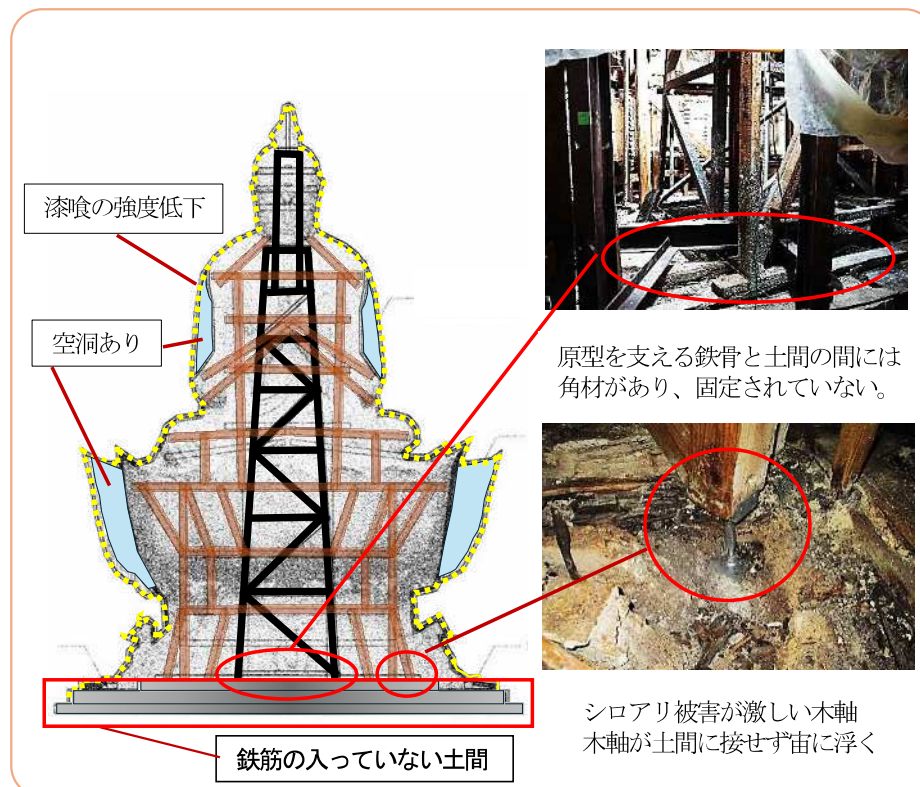


原型のいたるところに  
ヒビ・剥離・カビが発生、  
装飾の落下がみられる。

補修前の原型



原型の補修前の状況



原型腹部のヒビ



原型蓮台下の剥離



原型蓮台下の装飾落下



損害の拡大、倒壊の恐れ



# 沖縄平和祈念像原型の永久保存を目指して

補修後 高さ約 10m 光背まで高さ約 12m、幅約 7.5m 重さ約 71 t（新規土台含む 想定）

## ●令和4年度 シロアリ駆除と燻蒸

- ・原型とアトリエに巣くっていたシロアリ駆除とそのほかの害虫駆除、殺菌

## ●令和6年度 原型基礎強化と原型内外面の補修

- ・光背を撤去、シロアリ被害などで腐った木軸の交換、カビ等の除去
- ・原型下部に新たに土台を設置 ➡ 原型内部の既存鉄骨下部に新規基礎と新規鉄骨設置  
➡ 新規内部基礎と新規鉄骨と新規土台を連結 ➡ 原型の基礎が安定
- ・原型下部の空洞へ樹脂等で充填、内部にFRP貼り付けと樹脂塗布、外部に樹脂塗布

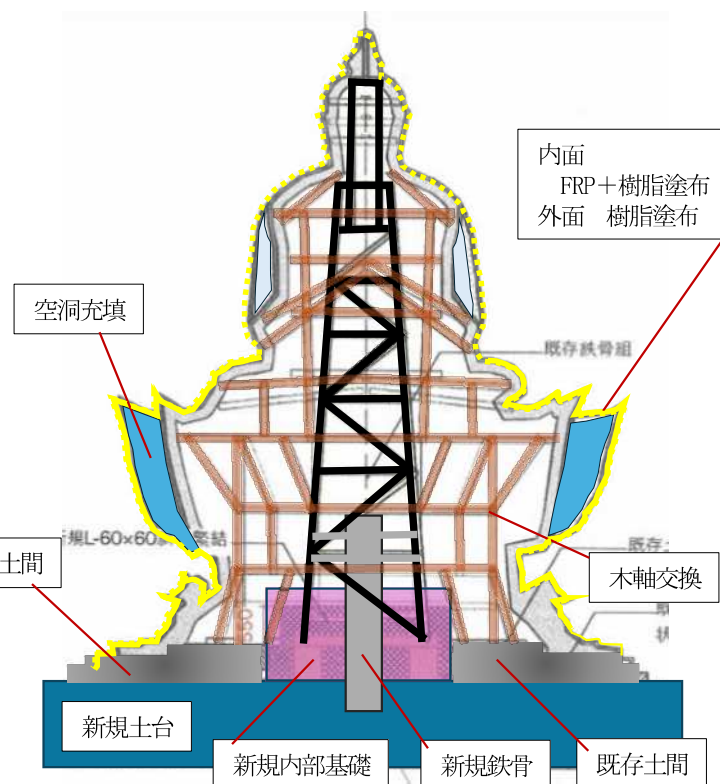
## ●令和9年度予定 第2回目の原型補修（展示棟内にて）

- ・原型上半分（蓮台上）の補修  
空洞充填、糸満の祈念像制作時の石膏型痕の除去
- ・落下した装飾等の復元
- ・光背の復元
- ・原型各箇所のヒビ割れ、剥離箇所の修復
- ・原型外面の樹脂塗布

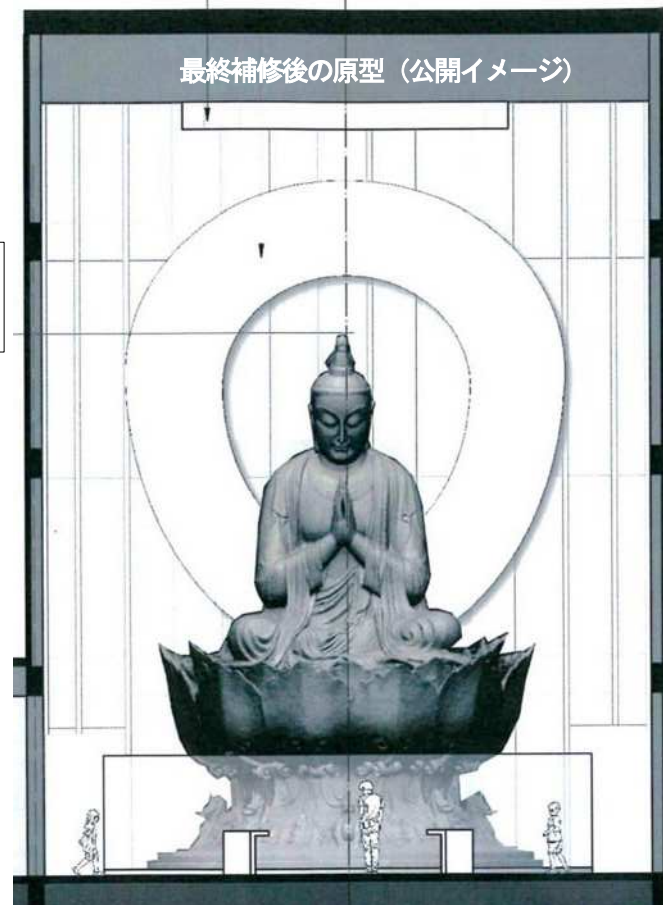
第1回目 補修後の原型



第1回目 原型補修

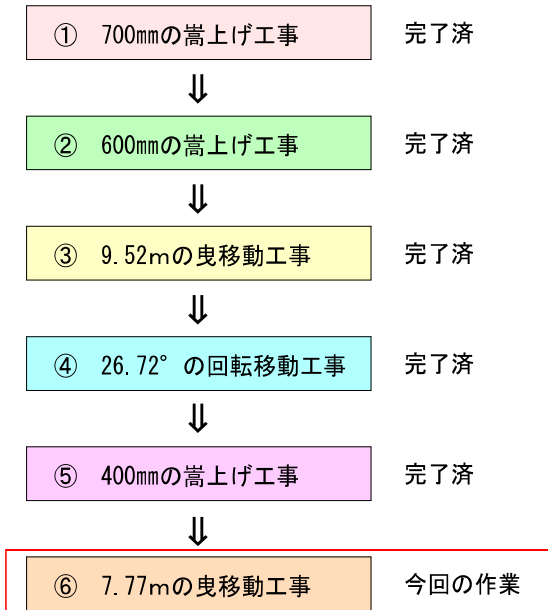


最終補修後の原型（公開イメージ）





## 【今回の工事の施工手順】



曳家工事完了後、普天間交流拠点施設の建設にあわせ、令和9年5月頃に展示棟へ平和祈念像原型を収めるための曳家工事を行います。



嵩上げ前



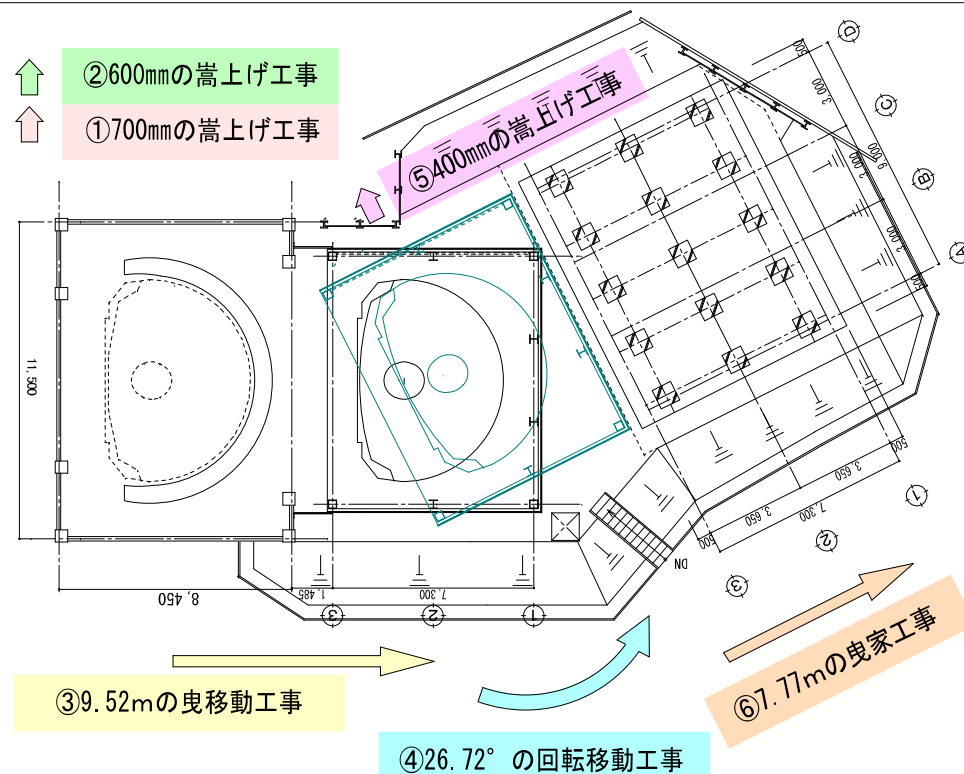
嵩上げ後  
当初より+1,300mm



着手前



養生棟完成

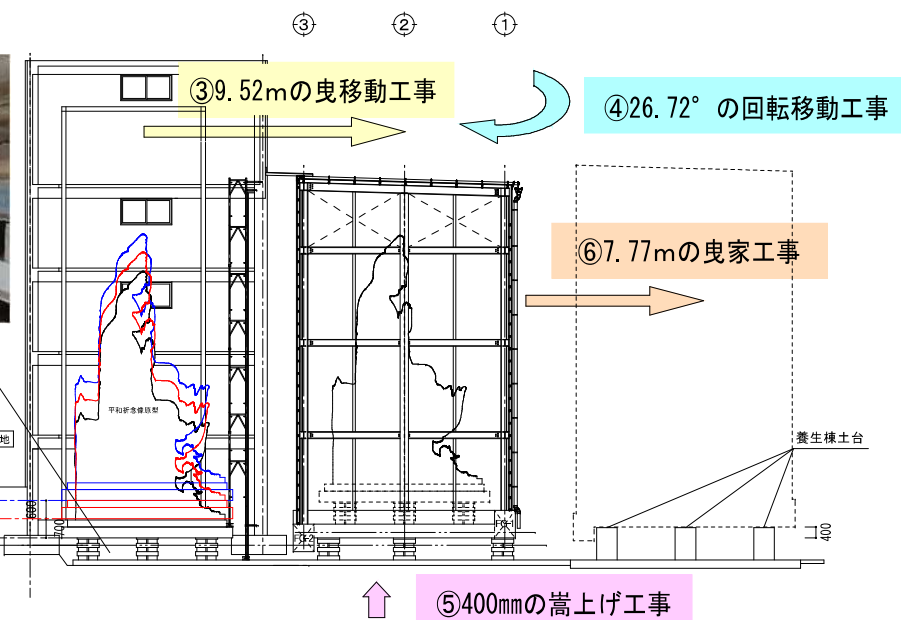


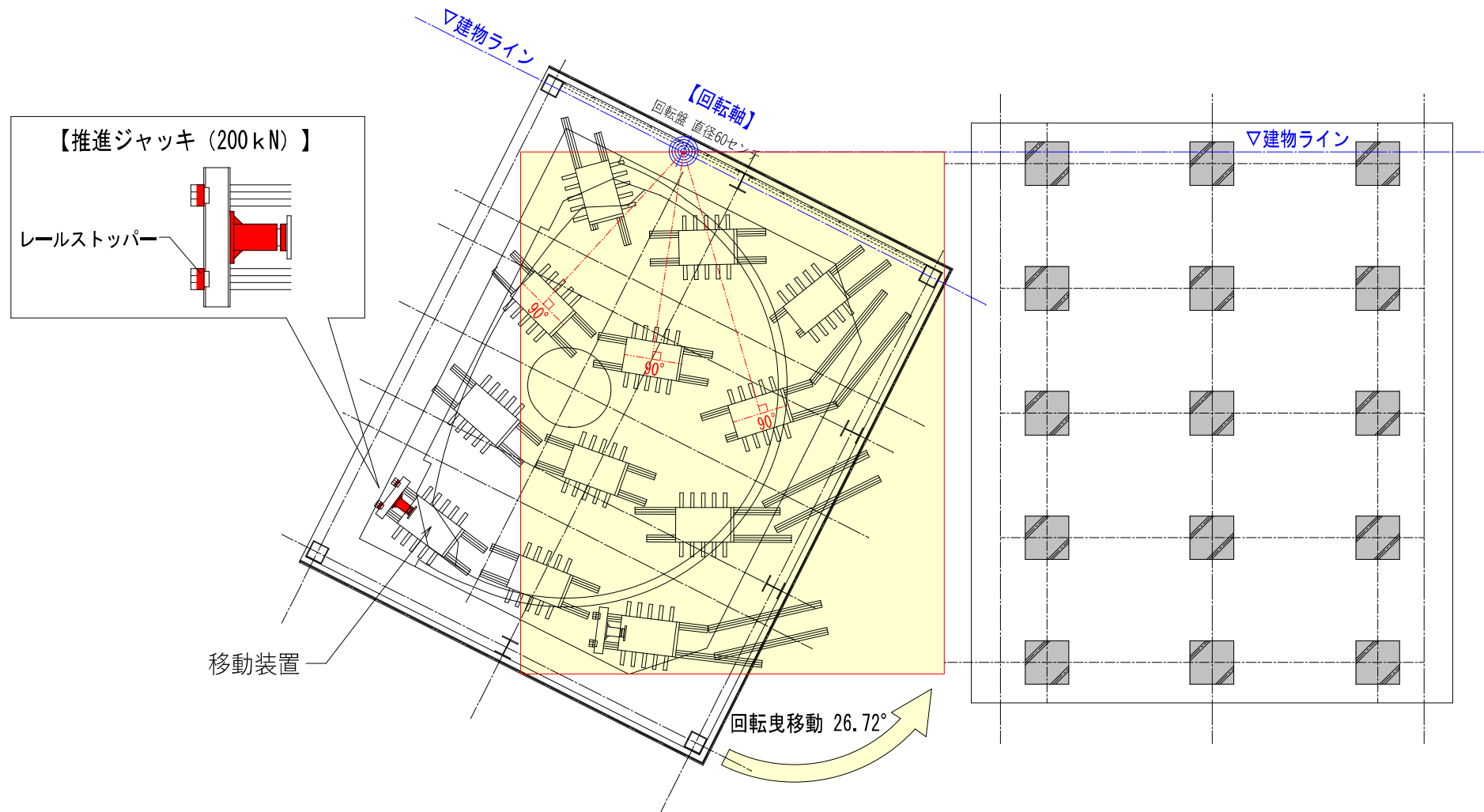
平和祈念像原型下の井桁

普天間小学校敷地

②600mmの嵩上げ工事

①700mmの嵩上げ工事

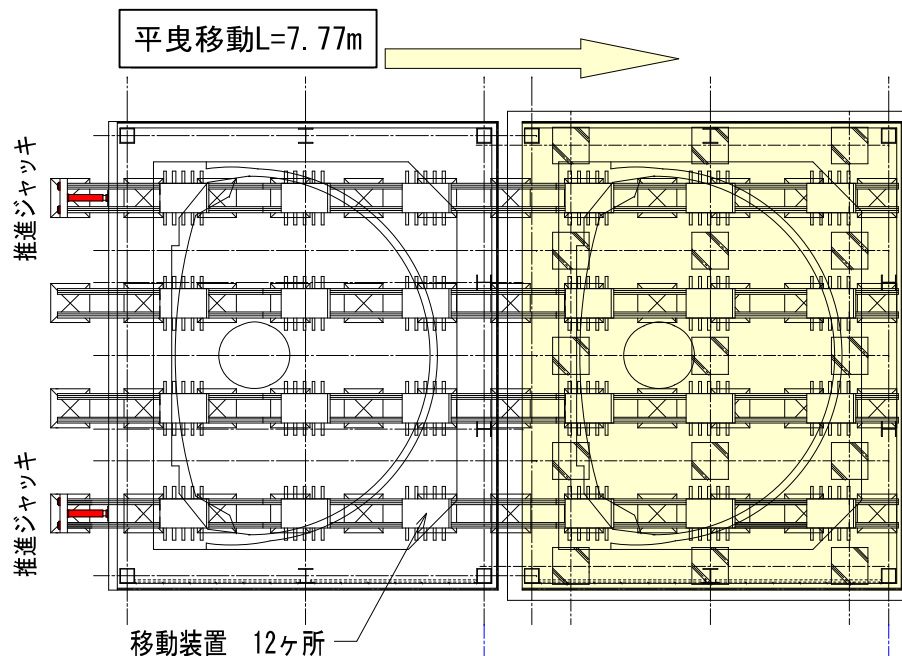




### 平和祈念像（養生棟ごと）の回転移動工事 移動角度 26.72°

現状と移設先を平行に合わせるために、祈念像を養生棟ごと回転移動を行います。回転軸は、双方の建物ラインが交わる位置とし、回転盤を設置します。移動装置とレールは回転軸に対して、それぞれが90°となる配置にして、コロ棒は1本1本が回転軸を向く様に配置します。推進ジャッキ2台を回転軸から同じ距離の位置で押すことにより、同じ力で移動装置が円を描く様にゆっくり移動を行います。

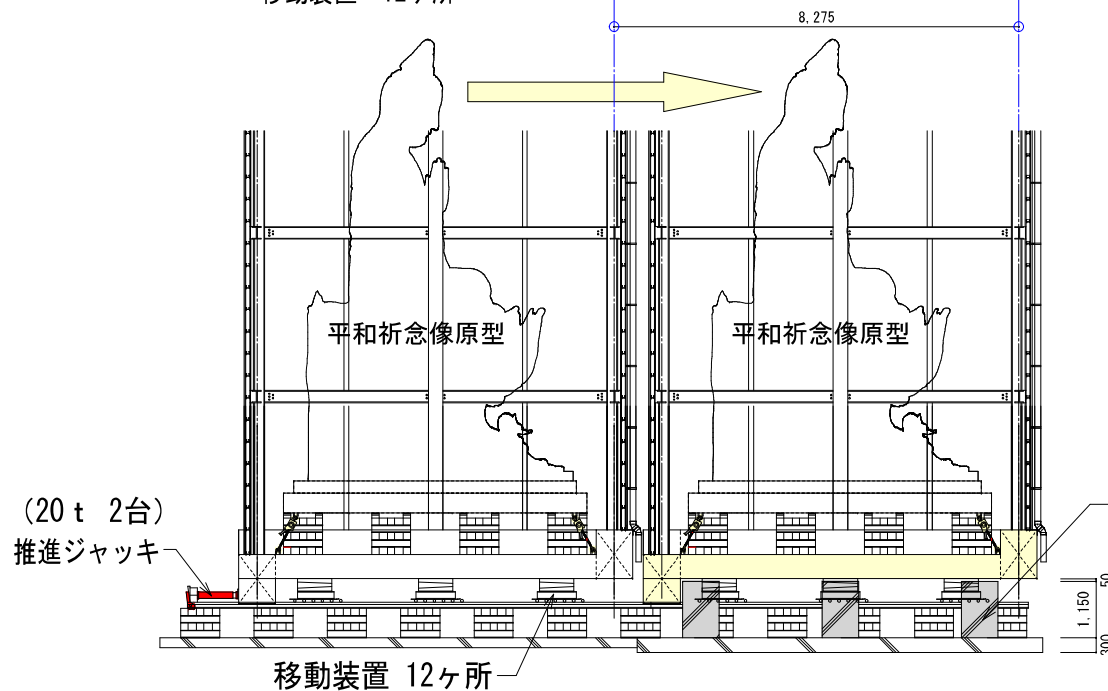




## 平和祈念像（養生棟ごと）の平曳移動工事

移動距離 7.77m

新たな交流拠点施設のスペースを確保するために、祈念像を養生棟ごと、国道側に平曳移動を行います。後方にセットした2台の推進ジャッキを同時に加圧して、最大の60センチで推進ジャッキを盛り替えます。中間の30センチで、養生棟の高さと位置の測定を行い、水平にまっすぐ進んでいることを確認しながら、ゆっくりと目的地まで平曳移動を行います。移動後は、サイコロ型の土台基礎コンクリートに、ボルトと金物で固定を行い、曳家工事の完成となります。



サイコロ型の土台基礎コンクリート（15箇所）